

出前博物館報告  
チリモン探しと水辺の生き物観察  
佐々木彰央

チリモン探し 静岡県立中央図書館

8月20日、ちりめんじゃこを用いた体験実習を静岡県立中央図書館で行いました。本企画は静岡県自然史博物館ネットワークと静岡県ふじのくに地球環境史ミュージアム整備課との共同で実施し、60名の参加者にお越しいただきました。材料として使用したちりめんじゃこは混獲の多い特別な品を使用したため、イカ、タコ、エビ、カニなど馴染み深いものから、オキアミ、ギンカガミ、カワハギ、ウナギギンポ、イケガツオなどもみつけられました。これら見つけ出された海洋生物は観察後に台紙に張り付けて、種名を記入してもらいました。

このように、参加者たちにはチリモン探しを通してソーティング、分類、保存の体験してもらいました。参加者達からは、「楽しかった」「勉強になった」などの意見を多数聞くこと



ちりめんじゃこからいろいろな海生生物をさがすことができました。ちりめんじゃこは静岡の地場産品でもあるため、今後も出前博物館などで活用していきたいと考えています。

水生生物の観察会 吉田町立ちいさな理科館

8月24日、吉田町立ちいさな理科館で水生生物の観察会を実施しました。この理科館には「こころの池」という小さな池があり、ガマやショウブ、ヒシなどが群生しています。この池でみられる水生生物（昆虫・魚類・両生類）を対象として観察会を実施しました。参加人数は大人と子供を含め25名でした。

はじめに筆者から水生生物の紹介を行い、その後全員で池へと出かけました。参加者にはタモ網を持ってもらい、池の中を探りました。その結果、ヒメガムシ、コツブゲンゴロウ、ギンヤンマのヤゴ、ハバヒロトンボのヤゴ、ドブシジミなどの在来種と、ウシガエルの幼生、カダヤシなどが多数採集できました。特にヒメガムシとドブシジミ、カダヤシ、ウシガエルの幼生は数が多く、必ずと言っていいほど採集されました。しかし、沢山採れるウシガエルとカダヤシは特定外来生物に



ちいさな理科館で水生生物の観察をする

指定されており、飼育、販売などが行えません。これらの生き物について本法人の三宅隆氏より説明があり、外来種の取り扱いについて、参加者に理解を深めてもらいました。